

第2回 一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録（要旨）

日 時：平成27年8月28日（金）午後2時～3時56分

会 場：一宮市役所 本庁舎11階 1102会議室

出席者：委員20人（代理出席2人）、事務局4人

傍聴者：1人

1. 開会
2. 資料・定足数の確認
3. 傍聴者の報告
4. 議事

① 各種アンケート調査集計結果について

▽アンケート調査集計結果（転入・転出者向け）を説明【資料1-1】

- ・転出入の理由や転出入先を決める理由など

▽アンケート調査集計結果（学生向け）を説明【資料1-2】

- ・卒業後の進路希望地と居住地域を決める理由など

▽アンケート調査集計結果（子育て世帯向け）を説明【資料1-3】

- ・理想と現実の子どもの数の乖離の理由や子育ての不安事項など

◎委員の意見等

- ・アンケートは概要版とあるが正式結果はいつですか。

事務局：もう少し分析を加えて最終的なものにしたいと考えています。

② 一宮市人口ビジョン骨子（案）について

▽人口ビジョン骨子案を説明【資料2-1】

- ・過去から現在までの人口動向を、時系列、年齢階級別、出生、産業別就業・雇用について分析した結果など

▽人口推計シミュレーションを説明【資料2-2】

- ・合計特殊出生率と移動率の違いによる独自算定した人口の推移結果など
- ・独自算定を行った12パターンのうち、パターン1（出生率は国・県に準拠、移動率は現在の2倍）を事務局案とすることを提案

◎委員の意見等

- ・同規模市比較で他項目は低いのに事業所数だけ一番多くなっているが、繊維の中小零細が残っているのか。

事務局：統計上の一定規模の事業所の数ですが、小規模なところがかなり残っていると推測します。

- ・できれば35万人で推移する都市であってほしいと思います。
- ・出生率に理想と現実あるが、この高い目標をどのように考えているのか。

事務局：アンケートでは子ども数に理想と現実の差があり、これから諸施策

を通じて希望人数まで上げる努力をする、目指す数字です。なかなか難しいことですが、理想を叶えるために社会全体で支える目標として決めました。

・人口推計で提案されたハードルは高い。進めるにあたり市民に距離を置かれるような難しい数値でなく、超すことが可能な数値を目標にした方が士気は上がるのではないかと。

事務局：移動数については過去の実績から出したもので、今後も社会増は続くと考えています。出生率については議論があると思いますが、この数値に向けて努力していきたいという考えによるものです。

・社会増が今後も持続することは、何らかの調査で出ているのでしょうか。

事務局：明確なものではないですが、名古屋に近いという利便性があり、都会過ぎないということが評価されているのではないのでしょうか。

・社人研の推計が何も手を打たなかった場合の数字でよいですか。

事務局：そのとおりです。

③ 一宮市総合戦略の基本目標・基本的方向（案）について

▽メインテーマ（大目標）と4つの基本目標・基本的方向を説明【資料3-1】

・総合戦略策定には目指すべき方向性が必要で、戦略は何をやるのかという柱になるのが基本目標・基本的方向です。議論のため、複数案を提示させていただきました。メインテーマは、キャッチフレーズ的なものです。基本目標は、国に従い4つに分けました。基本的方向については目標に対して実施すべきイメージになります。なお、ここに挙げた基本目標・基本的方向については、すべてを実施するというものでなく、考えうるものを網羅したものです。重点を置くべきことや大切なことなど、ご意見ををお願いします。

▽総合戦略策定に向けた一宮市の現状分析を説明【資料3-2】

・この現状分析は、活かせることをイメージして、強み・弱みをまとめたものですので、参考にしてください。

◎委員の意見等

▽メインテーマで利便性はやむを得ないし、人を呼び込むということもいい。住んで暮らしてもらうために安心・安全は欠かせないことであり、防犯カメラ設置の必要性強く感じているが、町内がまとまらないと設置できないので、行政の力や地域創生の役割を強化したいと感じている。（意見報告書No.1）

▽一宮は、一つのまちで「ヒト・モノ・カネ」が成立しないという意味で田舎であり、農業など都市ではない豊かな田舎でもある。

出生率については一番高いものを出さざるを得ないし、これを目指して都市間競争すること、真剣に取り組む危機感を表現するものでないといけない。100年先の人口状態を示し、どんなに危険な状態かを出した方が良いと思う。

長期的な地域目標を持ちつつ、短期的具体的実践と失敗、反省を繰り返して生まれていく「一宮らしさ」「ブランド」を育みたい。

一宮市が全市で情報共有し真剣に取り組んでいる実態を聞きたい。広報については、地方創生のスペシャルサイトで広範な意見を常に聴きつつ発信できたら良いと思う。(意見報告書No.2)

▽食事から第一歩ということで「食・農を通じて、楽しく学べる、楽しく健康になる」まちづくりを意見報告書のとおり提案した。(意見報告書No.3)

▽一宮市内で働きたい人はあるので、介護職とかあれば若者の職業となり得るが、医療系、介護福祉系は給与安くて家族が養えないので、何らかの補助があればと思う。(意見報告書No.4)

▽メインテーマ=切り口として子育てで良い。子育ては、すべてのことにつながるものと考えます。共働き世帯が増えており、安心して預けて働ける環境をつくる市であれば社会増にもつながる。(意見報告書No.5)

▽大学生の奨学金(教育ローン)が、若者にマイナススタートを強いており、若い世代に負の連鎖を呼んでいると聞いた。国がやることかもしれないが、まず地方=市から訴えて国・県への働きかけが必要である。金銭がないため教育が受けられないという心配がある。

子育ては充実してほしい。共働き世帯が増えており、仕事・子育ての負担も大きい。子どもを預ける以外で、負担を和らげることも考えなければならない。

(意見報告書No.6)

▽起業創業には取り組んでいるが雇用創出まで至っていない点で企業誘致は必要と考える。繊維、食品製造という地場の産業を育成できるような企業誘致が必要で、そのための土地の有効活用として、競輪場跡地の活用や繊維団地の再開発に真剣に取り組む必要がある。工業団地の開発も進んでいないので取り組んでほしい。(意見報告書No.7)

▽勤労者世帯収入の高いまち、共働きしやすいまち、3世代同居がしやすいまちを目指し、そのために雇用の場を創出する。(意見報告書No.8)

▽基本目標にある「水辺の風景」というのは、今までアピールされたことがなかった気がする。地域によりベッドタウン化しているところもあり、究極のベッドタウン目指してもいいかともちょっと考えてしまう。地方創生では、今までやっていいのかと思っているようなことにも取り組めば、やったところは注目される。

▽メインテーマは総合戦略の核であり、ここから一宮の魅力とか施策が出る凝縮したものでまとめるものである。「名古屋から10分」という同条件の他のまちとどの様に差別化を図るかという点もあるが、人口は社会増ということであれば外せない。

基本目標については、経済面では外で稼げる産業と雇用を吸収する産業を立地が必要で、企業誘致は最も大事である。基盤産業(製造業)の周辺には非基盤

産業（サービス業）が形成され、住み良さが増すということになる。一宮は企業数に比べ出荷額が少なく労働生産性低いので、できるのは付加価値的な産業の育成となる。尾州テキスタイル産業は構造変換が難しいが、基盤産業であれば施策は大事である。創業起業は新たな産業を興す取り組みとして最も大切で、若者への企業スピリット醸成はとても大事である。これから財政厳しいので市民力を活かしたソーシャルビジネス支援、また女性の働きやすい環境整備も大事となる。

▽フリーター、派遣社員という給料低い若者増えており、高い出生率目指すなら、20・30代の独身者に対するアンケートや既婚者で子どもがない世帯へのアンケートも必要と考える。派遣等に頼らないためには、企業誘致による雇用機会を増やすことも必要である。

▽個人的には、岡崎から一宮に通っているが、名古屋や岐阜に本当に近い。名古屋のベッドタウン的になれば人口は確実に増える。例えば三河のように外国人が増えれば人口は増えるが、不安要素も増える。どのような人に住んでほしいかを考えてもらえたらと思う。

▽人口減少をいかに止めるかについて、①自然減をいかに減らすか②社会増をいかに増やすか③企業誘致で他市町の人をいかに取り込むか、のいずれか。ベッドタウンということであれば、まちづくりのコンセプトは全く変わる。基本は②③であり、ポイントは税収が上がる企業誘致であり、これによりいろいろな子育て支援ができる。

▽地方創生に取り組むなら、他の委員さんと同じよう、子育ての精神的負担を和らげることと、食の大切さを併せながら行うことが良い。究極のベッドタウンもいいでしょうし、ここに防犯とか暮らしやすい環境が出てくる。

奨学金の問題（若者の貧困化）は大事だが、国が取り組む問題と考える。

一宮は子育てで進むのが望ましいと思う。

▽一宮はどんなまちと市外の人に聞かれたとき、市民はどう答えるか。ベッドタウンという言葉が先に出てくるのは魅力がないからで、一宮ブランドを創りあげるなど団体として取り組んでおり、市民が自信をもって言えることが、市の魅力を高める大きな要因となる。

修文大学学生へのアンケートで9割の人が学校からどこも寄らず家に帰ると答えた。競輪場跡地や繊維団地再開発などコンセプトをもち開発し、一宮のまちに来る理由をつくってあげることも大事です。

▽税収という視点から産業活性化が重要と思う。中心市街地活性化では20年前の鉄道高架からいろいろ取り組んできたが活性化の効果はまだみられない。シンボルの真清田神社周辺の賑わいも今ひとつであり、これら環境を活かす仕掛けが必要。昼間人口を増やすための賑わいづくりとして、鉄道等の利便性という利点を活かし観光に力入れる。リニアを見据え「観光都市一宮市」という力強い目標を持って、市外の人や外人、若者に支持されるまちづくりを目指

す。インターネットや Wi-fi 整備などは観光都市として宣伝効果がある。いろいろな観光資源があり、全国に広げられたらと思う。200 万都市名古屋市の市民が、田舎の一宮を目指すまちにする。

▽一宮署内の犯罪は県内 44 署の中でも真ん中より少ない方だが、ネガティブな評価となっている。また、定住者については、例えば自分の同級生を見てみると一宮市内に住む者 47.5%、これを含め県内は 82.1%とかなり高いという状況である。

▽中心部以外の者には名古屋への利便性の実感はない。総合戦略で、人口減少を人の呼び込みと捉えるのは賛成できない。子育てにかかわる者として、人の取り合いよりは、人をいかに出さないとか、例え一時市外に出ても必ず帰ってきてくれるような取組みをお願いしたい。地元には高校も多く、地元企業とのいい連携もあるが、知られていないのでアピールが必要である。市には細かいことで売りが一杯あるので、これを取り上げて力を入れることもできる。

「トカイナカ」のような田舎色は出した方がよい。地元食材を給食に定期的に出したり、地元企業と連携を密に職場体験をしたりと、小中学生に一宮には素晴らしいものがあることが分かるよう、田舎体験みたいなものができる体験型教育の方面にも目を向けてほしい。(意見報告書No.8)

▽津波、土砂崩れなど災害が少ないという点で安全なまちであるが、稲沢などの近隣市と比較し子育てしやすいまちかといえば評判は良くない。子ども医療費・放課後児童クラブの問題でも不十分なのでお母さん方は不安がっており、働きやすい子育て環境づくりに早急に取り組んでほしい。子どもの希望数に対して出生率の低さは、経済的な問題と核家族化による担い手不足の問題かと思う。女性が経済的に働かざるを得ない状況に合わせた取組みも遅れている。大学の授業料負担も先進国では一番高い。仕事の面では活力ある産業のまちづくりをいかに進めるかであり、先だって F D C であったような P R も必要なのでやってもらいたい。

▽先ほどの発言で言葉が足りず補足したい。究極のベッドタウンと言ったが、どこかの大きな団地ではなく、ゴーストタウン化させないことをイメージしたものである。逃げない企業誘致なども併せてやりつつ、まず考えられることが都心から 10 分を利用したベッドタウンということなので、いろいろやる中の一つの事柄という意味である。

5. その他

次回会議は 10 月下旬を予定、決まり次第ご案内します。次回会議資料も早めにご送付しますので、お目通し願います。

【別添2】

第2回一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議

「意見報告書」

(あて先)

一宮市企画部地方創生室

FAX : 0586-73-9128

メール : chihososei@city.ichinomiya.lg.jp

〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号

(FAX、メール、郵送、いずれかをお願いします。)

※郵送の場合は、同封の返信用封筒をご利用ください。(企画政策課宛のものを代用しています。)

▼資料3-1「一宮市総合戦略の基本目標・基本的方向(案)」に関するご意見

・【メインテーマ(大目標)】(案)に関するもの

1 都心(名古屋)まで10分の利便性は、若者男女、誰に
 にもなるはず。でもバスとバットタウン化し、雇用や支出が市外に
 流れている現実もあります。その逆で一宮市に人^増と来ると(人)になるのだと
 思いました。

・【基本目標、基本的方向(個別テーマ)】(案)に関するもの

① 犯罪の無い、安全で安心な暮らしとは誰もが願う事案です。
 大阪府の事件や昨今の誘拐など「防犯カメラ」の設置がいかに必要かを問われ
 ています。連区単位、町内単位に手配する事は一宮市として取り組むべきだと考えます。

② 国や地方での資金支援には限界もあり、^国その支援が出生率をあげるものになるかと
 疑問に感じています。昔のよう「自分子育て」ではなく、今は「自分と子育て」で
 育児と美容、自立、ゆとりと、とほも欠ける事のない生活を望んでいると思えます。
 「収入の安定」が必要不可欠であり「雇用」の場の提供が安定した生活の基盤となり得る。
 小学校卒業までの一時預りや^(定年退職者等)シニア世代の子育て支援など地域との絆を
 定心で繋ぎ、
 自分の時間をつくる

▼そのほかのご意見

浅野地区で、公民館を利用し、1年から4年生までの子供を地域のボランティアスタッフ
 で預っている話を聞きました。とても素晴らしい事だと思いました。
 地域の木々が、地域の子供の顔と名前を知ること「子供を地域で守る」事につながります。
 こういった活動をもっと知り、我々でもできる事をすべきだと思えました。

【別添2】

第2回一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議

「意見報告書」

(あて先)

一宮市企画部地方創生室

FAX: 0586-73-9128

メール: chihososei@city.ichinomiya.lg.jp

〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号

(FAX、メール、郵送、いずれかをお願いします。)

※郵送の場合は、同封の返信用封筒をご利用ください。(企画政策課宛のものを代用しています。)

▼資料3-1「一宮市総合戦略の基本目標・基本的方向(案)」に関するご意見

<p>・【メインテーマ(大目標)】(案)に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「トカイナカ」概念の抽出は素晴らしい。 ●過去の栄光にぶら下がることに決別し、「スーパー普通の町」として中部圏全体の中で一宮地域の強み弱みを分析し、行動することが重要では。 ●ただし、木曾川が育くむ豊かな自然は、実際には他地域に比べて小さいし、乱脈な都市化が進んでいる。 ●短期的に資源を集中すべき「実践課題」と、100年後を見据えて他の諸計画との調整機能も持つ「ミッション課題」を別の車輪としてお互いが別方向に引き合わないようにつつ、長短のバランスを取る必要がある。
<p>・【基本目標、基本的方向(個別テーマ)】(案)に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コンサル的「**らしさ」でなく、長期的ミッションを追って短期的実践を繰り返す中で真の「一宮にしかない」アイデンティティを形成していきたい。小さな失敗を繰り返しながら反省を繰り返して生まれていく「一宮らしさ」を育くみたい。 ●ブランドも同様で、販促も重要だが、それより世界に問える品質と差別化が必要。そのための実験ができる環境づくりであり、その環境が起業精神を熟成する。 ●自然は豊かではない。都市部の自然は意図して再生し、意図して保持するもの。名古屋の都市緑化と比してすら「？」 ●子育てに金銭的優遇は必要だが、バラマキでなく、本当に一宮での生活を大切に思い、子どもたちもこのまちで暮らそうとする総合的な価値創造が必要では。既存コミュニティの再考と再興ほか。 ●市民全員参加型地域へ。既存の地縁組織だけでなく、様々なチャネルによって多世代多文化による新しい地域活動参加により、市民が主体となって活動し、発言し、育成しあい、互助しあう基盤を。

▼そのほかのご意見

広報発信が早急重要と思います。とりわけネットでの「一宮市まち・ひと・しごと創生スペシャルサイト」を設置、広く一般の声を聞くと同時に、一宮の状況を開示することが人口を引き寄せる一歩と考えます。伝えながら聞き、聞きながら伝える双方向発信により、地方創生の実効性が確保されていくのでは。

【別添2】

第2回一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議

【意見報告書】

(あて先)

一宮市企画部地方創生室

FAX:0586-73-9128

メール: chihososei@city.ichinomiya.lg.jp

〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号

(FAX、メール、郵送、いずれかでお願します。)

※郵送の培委は、同封の返信用封筒をご利用ください。(企画制作課宛のものを代用しています。)

▼資料3-1「一宮市総合戦略の基本目標・基本的方向(案)」に関するご意見

・【メインテーマ(大目標)】(案)に関するもの

「食・農を通じて、楽しく学べる、楽しく健康になる」まちづくりと言う大目標を新たに提案します。

・【基本目標、基本的方向(個別テーマ)】(案)に関するもの

基本目標として「一宮の食・農をアピールし、人が集まり魅力ある躍動する場所」をつくる

基本的方向

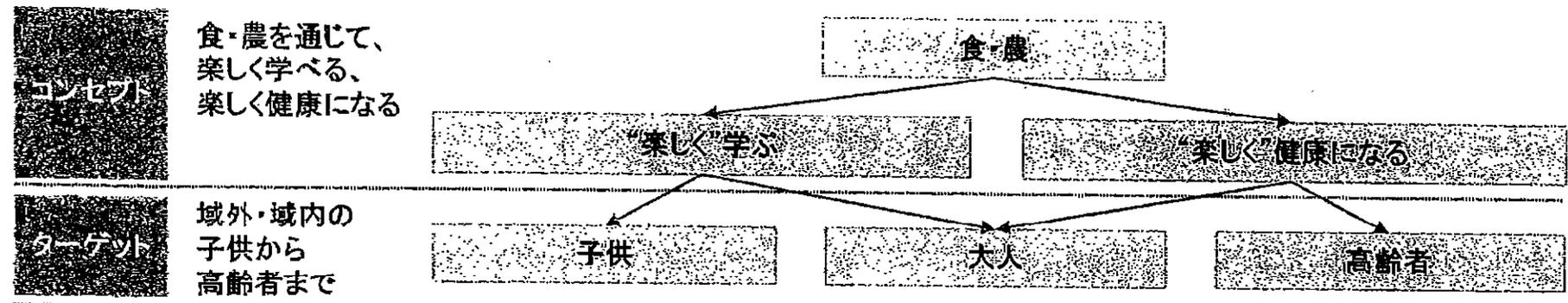
- ・ 児童・園児等が季節毎の地元野菜の農作業や生育過程、最新技術等を楽しく学べる常設展示場
- ・ 市民、農業塾生等が参加して、農作業を通じて、楽しく健康になる農業体験の場の提供
(健康で長生きすれば、医療費も削減できます)
- ・ 消費者の方に地元の“旬”で新鮮且つ安全・安心の美味しい野菜・果物を提供できる産直広場
(農業後継者不足、耕作放棄地の緩和策として、やりがいのある農業の提供)
(消費者及び将来のお子さんに、生産履歴によって収穫された安全・安心な国内農畜産物の提供)
- ・ 地元でとれた“旬”の野菜で作ったメニューを提供する農家レストラン・カフェ
- ・ 地元の人が利用できる広場

▼そのほかのご意見

--

「食・農を通じて、楽しく学べる、楽しく健康になる」拠点をつくる

拠点のコンセプトとサービス概要



拠点での集客型サービス	産直	地元の“旬”で新鮮且つ安全・安心な美味しい野菜・果物が溢れている産直 > 拠点の“顔”となる施設 > 地域住民は、“旬”の野菜を学び、栄養価の高い野菜を食すことで健康になる
	農家レストラン・カフェ	女性部会による“旬”の野菜で作ったメニューを提供する農家レストラン・カフェ > 地域住民は、“旬”の野菜を学び、栄養価の高い料理(野菜)を食すことで健康になる > 特産の植木の庭園や銀杏の木を見ながら、リラックスできるカフェ > 広場で朝体操をした人にはモーニングを提供
	常設展示場	季節毎の地元野菜の農作業(播種～出荷)や生育過程、最新技術等を楽しく学べる常設展示場 > “旬”の野菜を知ることともに、農作業のプロセスや野菜の生育の過程を学べる > 展示場の出口は産直に繋がっており、展示場で見た旬の野菜が産直の棚いっぱい並んでいる
	広場(イベント会場)	地元の人なら誰でも無料で利用(ヨガ、運動、スポーツ大会等)できる広場 > 無料にすることで、拠点に集まる人の間口を広げる > 広場にきた人が、農家レストラン・カフェ、産直に移動する動線をつくる
	農地	農作業を通じて、楽しく健康になる農業体験の場の提供 > 収穫した野菜を農家レストランに持って行って料理もしてくれる

全てのサービスが連携

【別添2】

第2回一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議

「意見報告書」

(あて先)

一宮市企画部地方創生室

FAX : 0586-73-9128

メール : chihososei@city.ichinomiya.lg.jp

〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号

(FAX、メール、郵送、いずれかをお願いします。)

※郵送の場合は、同封の返信用封筒をご利用ください。(企画政策課宛のものを代用しています。)

▼資料3-1「一宮市総合戦略の基本目標・基本的方向(案)」に関するご意見

<p>・【メインテーマ(大目標)】(案)に関するもの</p> <p>子育て世代や子どもに対する目標はあが、お年寄りとは少しは何かと同時に若者の必要があると思う。子どもはすぐには増えないが、お年寄りは確実に増えると思う。</p>
<p>・【基本目標、基本的方向(個別テーマ)】(案)に関するもの</p> <p>目標①について: 修大大学や官商学高校など、地元の学校を卒業した子どもは地元企業に就職しているのか疑問。就職したとしても給与は低く、若者が9割は? 名古屋など都会で働きたい人が9割はと思う。</p> <p>目標③について: 女性は結婚した男性の職場近くに引っ越して行くことが多いため、男性の職場となる企業が一宮に多くあるが、子どもを一宮で育てようとすると思う。</p> <p>目標④について: 防犯対策について、行政だけでなくお年寄りや若者を巻き込んで治安を上げていければいいと思う。例: 学校帰りの子どもが通学路に地域のお年寄りがおんね見守りしている→同じ時間にお年寄りが集まる機会がある→孤独死の防止というようにつながっていくと思う。</p>

▼そのほかのご意見

<p>個人的な意見ですが、知開催日を早く知りたい。不規則な仕事なので、はやくに知らせる方が希望で、人材が育ちやすいように...</p>

【別添2】

第2回一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議

「意見報告書」

(あて先)

一宮市企画部地方創生室

FAX : 0586-73-9128

メール : chihososei@city.ichinomiya.lg.jp

〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号

(FAX、メール、郵送、いずれかをお願いします。)

※郵送の場合は、同封の返信用封筒をご利用ください。(企画政策課宛のものを代用しています。)

▼資料3-1「一宮市総合戦略の基本目標・基本的方向(案)」に関するご意見

・【メインテーマ(大目標)】(案)に関するもの

私としては、メインテーマの中心におくべきものとしては「子育て」ではないかと考えている。そのテーマの下で、産業の育成、雇用の創出、教育環境の整備、防災等の問題を取り上げていくことが良いと思う。

・【基本目標、基本的方向(個別テーマ)】(案)に関するもの

基本目標、基本的方向の案は、上記の私の考え方とほぼ一致しており、この方向で進めていただければと考える。

▼そのほかのご意見

--

【別添2】

第2回一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議

「意見報告書」

(あて先)

一宮市企画部地方創生室

FAX: 0586-73-9128

メール: chihososei@city.ichinomiya.lg.jp

〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号

(FAX、メール、郵送、いずれかをお願いします。)

※郵送の場合は、同封の返信用封筒をご利用ください。(企画政策課宛のものを代用しています。)

▼資料3-1「一宮市総合戦略の基本目標・基本的方向(案)」に関するご意見

・【メインテーマ(大目標)】(案)に関するもの

奨学金問題など、若者が貧困化をし、その後の社会生活や結婚への問題に発展をしている。これらの問題は、貧困連鎖にとどまらず、中間層までもが、結婚・出産・子育てが困難となり少子化・人口減をさらに加速する問題へとなるのではないか。

・【基本目標、基本的方向(個別テーマ)】(案)に関するもの

ワークライフバランスは、女性の働きやすい環境だけではなくすべて人が、仕事以外への部分に、理解や配慮が必要ではないか。

子供を預けられる場所は必要だが、経済的負担や特に仕事・育児の両立は時間や精神的にかなりきつい面があり、それを当事者以外でどのように負担をしていくのか。

▼そのほかのご意見

地方創生については、各市町村だけでなく広域的な取り組みも必要ではないか

【別添2】

第2回一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議

「意見報告書」

(あて先)

一宮市企画部地方創生室

FAX : 0586-73-9128

メール : chihososei@city.ichinomiya.lg.jp

〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号

(FAX、メール、郵送、いずれかをお願いします。)

※郵送の場合は、同封の返信用封筒をご利用ください。(企画政策課宛のものを代用しています。)

▼資料3-1「一宮市総合戦略の基本目標・基本的方向(案)」に関するご意見

・【メインテーマ(大目標)】(案)に関するもの

特になし。

・【基本目標、基本的方向(個別テーマ)】(案)に関するもの

①-1 多様な手段による企業誘致の推進

ア 土地利用の見直しについて

一宮競輪場の跡地利用については、一宮競輪場跡地利用検討委員会から答申がありましたが、未だ具体的な提案はない状況です。

一宮市民の一人として、市からは、利用促進に向けて明確な方針を打ち出されてはいかがでしょうか。

②-7 にぎわいを創出する中心市街地の活性化

ア 本町1丁目のインフラ整備におよび本町商店街の空き家について

電線の地中化に留まらず、真清田神社の門前町として整備や、2丁目～4丁目との外観の違いは是正されたほうがよいと思います。

また、一宮市では、空き家対策として補助金制度がございましたが、今後、何らかの補助金や助成金の制度を設けることが望まれます。

▼そのほかのご意見

特になし。

平成 27 年 8 月 25 日

第 2 回 一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議「意見報告書」

調査集計結果をもとに、課題をできるだけ単純化して話を進めます。

1 調査集計結果（子育て世帯向け）について

(1) 子育てをするうえでの不安は、次の 2 つに分類されます。

- a 経済上の不安（学校の授業料、保育園・幼稚園の費用、医療費 など）
- b 子育て環境上の不安（託児施設の不足、小学生の一時預かり施設の不足 など）

(2) これらの課題に対しては、以下の対策が考えられます。

- A 経済的支援（学費支援、医療費支援 など）
- B 子育て環境整備（託児施設の増設、一時預かり施設の整備 など）

いずれの対策も効果を上げることが期待でき、望ましくはあるのですが、かなりの予算をとまないとすし、恐らくは時間もかかります。

(3) こうした中、A・Bの施策を推進しながら、子育て世帯が自助努力で自らの収入を増やしていけるよう、政策的に誘導することも、有効な手段ではないかと考えます。

(4) 一般的に就業者個人で見ると、都市部の就業者ほど収入は高いのですが、勤労者世帯の収入で見た場合、都市部以外の地域の方が高くなる傾向にあります。

総務省の「家計調査」でみると、勤労者世帯の「1世帯当たりの実収入」（年平均1か月間）の全国1位は福井県であり、以下2位東京都、3位富山県と続きます。東京は別として、もともと勤労者1人の収入が相対的に低く共働きせざるを得ない環境にあるため、結果的に世帯収入が増えるとも解釈できますが、都道府県別の世帯収入を見る限り、都市部以外の地域の方が高くなる傾向を見て取ることができます。因みに、愛知県は27位であり全国平均を下回っています。

< 1世帯当たりの実収入（平成22年調査） >

1位	福井県	634,573円	[共働き率] 67.43% (2位)
2位	東京都	627,326円	[共働き率] 48.48% (44位)
3位	富山県	615,372円	[共働き率] 66.31% (4位)
	全国平均	520,692円	[共働き率] 53.92%
27位	愛知県	514,182円	[共働き率] 54.48% (35位)

(5) 次に、同じ「家計調査」に基づく「共働き率」を並べてみると、ここでも東京都は例外として、「共働き率」の高さと「勤労世帯当たり収入」との間には相関関係が認められます。

ここで、仮りに共働きを政策手段として有効と考え、今後推進していこうとするならば、その前提となる環境整備が必要になります。

上記のBで示しました「託児施設の増設」、「一時預かり施設の整備」が正にこうした環境整備に該当するわけですが、整備には時間がかかります。

他の方法を考えてみましょう。

2 調査集計結果（学生向け）について

(1) 先に、福井県、富山県の話が出てきましたが、この2県には子育て環境に関連して共通性があります。それは、

勤労者世帯の収入が高い

共働き率が高い

三世代同居の割合が高い という3点です。

2県の「三世代同居率」は、福井県が2位、富山県が5位です（愛知県は30位）。

(2) 石川県も同様の特徴を備えていることから、この北陸3県の子育て環境をまとめて「北陸モデル」あるいは「福井モデル」と呼ぶこともあります。地理的、あるいは歴史的に培われてきた環境であると思われませんが、子育てがし易い環境であることは間違いなさそうです。

「三世代同居」がこのモデルのキーワードになります。

(3) 「三世代同居」など北陸3県の話に過ぎない、と切り捨ててしまえばそれまでですが、今回の「調査集計結果（学生向け）」を見て意外な印象を受けました。卒業後の進路で一宮市以外の居住地域を希望する学生のうちの約4分の1が、「将来は一宮市に住みたい（戻りたい）」と回答しており、その理由の最大のものが「実家があるから（親の近くに住みたい、経済的に楽だから）」となっております。

(4) 若い世代にこうした意識があるのであれば、「三世代同居」とまではいかなくとも、将来的に「三世代近（隣）居」が主流となる可能性は十分にありそうです。 実家の近隣に居住できるよう環境を整備し、共働きを容易にする政策は検討に値するのではないのでしょうか。

(5) 反対に、「卒業後も将来は一宮市に住みたくない」と答えた学生があげた理由の3番目が「（一宮市以外に）実家があるから」ということにも大きな希望がもてます。親世代に一宮市に移ってきてもらえばよいわけですから。

近年、住み慣れた戸建てから交通至便の駅前マンションに転居する高齢者夫婦が多い現状を見れば、必ずしも荒唐無稽な考えとは言えないでしょう。

いずれにせよ、学生世代にとって実家の存在がこんなにも大きなものであるという事実は重要です。

3 まとめ

これまでの話をまとめますと、一宮市が今後目指すべき方向は、

- (1) 勤労者世帯収入の高いまちを目指す。[→経済的豊さの実現]
- (2) ((1)を実現するために) 共働きしやすいまちを目指す。[→女性の活用]
- (3) ((2)を実現するために) 三世代同居がし易いまちを目指す [→世代間の扶助]
- (4) ((1)~(3)を容易にするために) 雇用の場を創出する [→雇用の場の創出]

の4点にまとめることができます。

さらに、上記の4点は「国の基本目標①~④」にも一致するものと考えます。

以上「子育て環境の整備」という一点に絞って、話をつなげてまいりました。一つの個人的意見(の意見ではありません)として受け取っていただければ幸いです。

なお、使用データが県レベルのものにとどまってしまい、市の実情に即した議論ができませんでした。ご了承ください。

【別添2】

第2回一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議

「意見報告書」

(あて先)

一宮市企画部地方創生室

FAX: 0586-73-9128

メール: chihososei@city.ichinomiya.lg.jp

〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号

(FAX、メール、郵送、いずれかをお願いします。)

※郵送の場合は、同封の返信用封筒をご利用ください。(企画政策課宛のものを代用しています。)

▼資料3-1「一宮市総合戦略の基本目標・基本的方向(案)」に関するご意見

・【メインテーマ(大目標)】(案)に関するもの

- 「都心まで10分の利便性」というのは、市の周辺部にとっては現実的ではないと思います
- 「都会と田舎」が混在することこそ、「一宮らしさ」だと感じます。

・【基本目標、基本的方向(個別テーマ)】(案)に関するもの

- 産業にしる、子育てにしる、新しく施設を便りとかイベントや施策を行うとかの方法は時代によって変わっていくと思います。 現在ある個別のプランを充実させると同時に、市内の(中小でも)特色ある企業にスポットをあて、ひろいあげて統合的に活用して「一宮らしさ」を出していった方がいいと思います。
- 具体的には地元企業と工業高・商業高とのコラボ製品の積極的なアピール。 また地元食材を小中の給食で使用する、地元の製品を教材に使用するetc. 一過性ではない継続的なアピールが、若者の心の中に「一宮」を位置づけることにつながるのではないかとと思います。

▼そのほかのご意見

- 「自然豊かな一宮」をもう少しアピールし、体験型の子育てを提案してもいいと思います。 安全な川遊びの仕方、平・田んぼ、里山での自然にふれる教育、「生きろか」を育む教育は、この先の時代、必要になると思います。